

D-10 新生児栄養の実態

広島大教育 瀬之口スミ
岡山県琴浦高 ○野田 昌枝

1. 母乳栄養をすすめるため資料を得んとし、施設における新生児栄養の実態を明かにし、母乳分泌量を測定した。

2. 岡山県のOとKの2病院で昭和42年の1年間に出生した2295名を対象に生理的体重減少等につき検討し、その中から無差別に123名をえらび生後1週間の栄養状態をしらべ、K病院において昭和43年5月から6月までに出生した51名について哺乳量を中心に実態を検討した。さらにその中の3名の協力をえてひきつづき3カ月間1g感度の乳児用体重秤を使用して母乳分泌量等を求めた。

3. 2295名の生理的体重減少において、101~150gの間に減少するものが31.1%、また約80%が生後2~3日で最低体重を示し、約45%が生後7日目までに生下時体重に回復した。123名の生後7日までの栄養は「粉乳+母乳」が大半をしめ、母乳のみは1名にすぎない。平均哺乳量は1日目67cc、2日250cc、3日357cc、4日441cc、5日514cc、6日554cc、7日582ccであった。51名

の場合もほぼ同様に大半が「粉乳＋母乳」で栄養され、1日の母乳分泌量の約40%しか実際には哺乳されて居らず、1日の哺乳量の12～25%が母乳となっていた。3名を3カ月間母乳分泌量その他をひきつづき観察したところ、1日の哺乳量は生後2週間までは、生後日数の増加とともに増加するが、その後はほぼ安定し、母乳分泌量が100%摂取されたのは、生後41日目であった。